



**THE SOUND MAKER**（サウンドメーカー）を称え、  
ジャガー・ルクルトが、著名なスイス人アーティスト、  
ザイムーンに依頼した新たな作品を発表

一年に渡って時計製造における音の芸術を称える **THE SOUND MAKER** のハイライトとして、ジャガー・ルクルトの依頼でスイスの現代美術家ザイムーンが手掛けた新しい“音響彫刻”のインスタレーションを発表します。この新しい芸術作品は、今秋の中国での発表を皮切りに世界中で展示される予定です。

ジャガー・ルクルトは、作品制作の依頼を通して、独創的で文化的な世界を広げ、時計と芸術を結び対話を拡大していきます。**THE SOUND MAKER** のテーマを維持しつつ、音の性質を考え、称える作品を主に制作しているアーティストとコラボレーションすることを選択しました。

ザイムーンは、作品にシンプルな素材の使用や工業部品の再利用をし、これまでの彫刻や空間、時間の概念を新たに定義する、複雑で心を揺さぶる音と動きを生み出すタペストリーを制作します。自身のアプローチについて、次のように説明しています。「私は、空間を構成する要素の音だけでなく、空間を占有し、その空間と互いに影響し合う音にも興味があります。私は立体的な音の構造を、空間的体験と、音や素材、空間の探求 - そして知覚で扱います。」

ザイムーンは、音の強弱や動き、共振特性に基づいて素材を選択します。意図的に、単に魅力的に見えるだけの素材は選択しません。この点は、ジャガー・ルクルトの時計職人達が金属を取り扱う方法と明らかに類似しています。このことがザイムーンとのコラボレーションにさらなる奥行きを与えます。「ザイムーンと仕事ができて光栄です。」と、ジャガー・ルクルト **CEO** のカトリーヌ・レニエは述べています。「ジャガー・ルクルトのマニュファクチュールのように、彼は素材を的確に変身させます。さらに彼の金属に関する専門技術と創造性は、常に専門性と美の理想的なバランスを追求するジャガー・ルクルトの職人達と見事に一致します。」

チャイム機能を備えた時計のムーブメントを製作する職人達のように、ザイムーンは、シンプルさと複雑さ、エレガンスと遊び心を組み合わせて優美で詩的な作品を制作します。どちらの場合も、その魅力は、目に見える具体的な要素を通して音が作り出される過程が瞬時に分かることにあります。また同時に、システム全体が複雑であり、バラバラに分解できないことにもあります。



## ‘THE SOUND MAKER’ インスタレーション

**1944 prepared dc-motors, mdf panels 72 x 72 cm, metal discs Ø 8cm, 2020 [1944 年製 DC モーター、MDF パネル 72 x 72 cm、金属ディスク 直径 8cm、2020]**

ザイムーンは、自由に解釈できるように、使用した素材を並べただけの非常に技術的なタイトルを作品に付けており、それらの要素を各自が様々に受け取ることができます。この作品は、小さな DC モーター、電線、MDF パネル、そして約 2,000 枚の非常に薄い金属ディスクを基材としています。実際、これらのディスクはジャガー・ルクルトから入手した時計部品であり、音源として使用されています。電線でモーターに接続されたディスクは、コインが地面に落ちるときのように MDF パネルを背景に回転します。摩擦によって非常に複雑な音響効果が生みだされ、動きによって表面がちらちら光ります。

ザイムーンは以下のように説明します。「金属ディスクを保持する電線は手で曲げているため、それぞれがわずかに異なっており、金属ディスクがそれぞれ違う角度やスピードで回転します。これによって、作品の外観や音響特性に影響を与える複雑な個性が生み出されます。音は非常に複雑で、その微細な構成が常に変化します。川の音のように、全く同じ音が聞こえることは二度とありません。視覚的にも似たような複雑さが生まれます…水面で見られるような、ちらちらした光が生じます。」

見る人の心の中で、この複雑で心を揺さぶる音と動きのタペストリーが、自然の音や水面に反射する太陽の光といった自然の現象につながります。そして、溪谷の自然の風景へ誘われ、ジャガー・ルクルトの時計職人が彼らの環境と深く結ばれていることを思い起こさせます。

---

### ザイムーンについて

ザイムーン（1977 年生まれ）は、“音響彫刻”、サウンドアーキテクチャ、インスタレーションアートで有名なスイスの独学アーティストです。機械的なリズムとプログラムされたシステムの流れを探求した、感性に訴える彼のインスタレーションは、ありふれた素材と工業用品が組み合わせられ、モダニズムの整然としたパターンと人生の混沌とした力の間にある緊張の関係を適格に表現しています。数多くの施設からサポートを受けていることに加え、ザイムーン作品は、国際的に有名な美術館で開催される展覧会で数多く展示されています。現代美術館 MAC（サンティアゴ、チリ）、ナム・ジュン・パイク アートミュージアム（ソウル）、関渡美術館（台北）、ソフィア王妃芸術センター（マドリード）、リングリング美術館（フロリダ）、ムンバイ シティ ミュージアム、中国美術館（北京）、LAC ミュージアム（ルガノ）、ソウル市立美術館、映像と音の博物館（サンパウロ）、木心美術館（烏鎮）、クンストハレ・ベルン、台北市立美術館、ル・ソンキャトル（パリ）、釜山現代美術館、ル・ロックル美術館 MBAL、ベルン美術館、ラムベール・コレクション（アヴィニオン）他。ザイムーンはスイス、ベルンに在住し、活動を行っています。



---

### THE SOUND MAKER について

2020 年、ジャガー・ルクルトは THE SOUND MAKER (サウンドメーカー) を称え、ジュウ渓谷の日々の生活の背景をなす自然の音と、ミニッツリピーター機構を搭載した時計の素晴らしい伝統にオマージュを捧げます。

150 年に渡り培ってきた卓越したミニッツリピーターの職人技を新たな方法で表現します。 ジャガー・ルクルトが 1870 年に初めてミニッツリピーターを製造してから 150 年間、ミニッツリピーターはジャガー・ルクルトの極めて得意な分野でありつづけ、比較的簡易なアラームから非常に複雑なグラン・ソヌリやミニッツリピーターにいたるまで、あらゆる種類の 200 以上のキャリバーがその技術力を示しています。同時に、ジャガー・ルクルトの時計職人もデザイナーも、音質と美の基準を新たにする数々の革新的技術で特許を取得しています。

---

[jaeger-lecoultre.com](http://jaeger-lecoultre.com)